

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	このこのリーフ葛飾		
○保護者評価実施期間	2025年11月30日 ～ 2025年12月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 27
○従業者評価実施期間	2025年12月1日 ～ 2025年12月14日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年12月26日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動能力の向上を図れる。 日常生活に必要な身体の基本的な活動能力を高め、楽しく持久力、運動神経や身体機能を向上できる。 外遊び、短距離走などにも小学生は参加してくれている為学校での運動でも結果が出ています。	施設到着後、徒歩3分の小学校の校庭ほどある広い公園に雨が降らないかぎり行き、運動に取り組んでいる。行きたくない児童については決して無理強いはしない。 SNSを活用して本日の活動の動画を父兄に送っていますので安心感を持ってもらえるように意識的に継続している。	理学療法士を月に1回依頼し、体の使い方などを頭で考えさせ運動させている。雨天の場合、職員によるヨガを実践してリラックス、体の柔軟性を高めている。そして児童の好きな水泳を夏休み中の療育時間を設けて体力づくりの支援に取り組んでまいります。
2	学習能力の向上を図れる。施設到着後、学校からの宿題を30分また児童によっては、宿題とは別にドリルなどを自主的に行わせ、学習力の向上を図っている。 父兄とのコミュニケーションを取り要望されている場合、漢字検定などの指導することができています。	「わからない」という言葉は児童に繰り返し、とてもいいことと何度も伝え、「わからない」ことに対してストレスを感じる子供たちにポジティブな思考をさせることを心がけている。黒板・そろばんなどを使用し楽しく学習に取り組ませている。	物づくり（図画工作）に力を入れている。集中力、継続力、微細運動になることが理由です。ほとんどの児童は夏休みに作成した絵画、芳香剤、工作を宿題として学校に提出しています。
3	社会性の向上を図れる。 責任感や協調性など周りの人々がかかわる時の態度、マナー、あいさつ、行動を高めることができる。 児童の「尊厳」を大切にしていって職員の情報共有ができている。	連絡帳に利用時には日記を記入させている。 運動については小学低学年でも高学年と同じメニューをこなしているため、体の使い方やコツなどは高学年に聞いた入り指導してもらっているため一体感が生まれ、協調性が自然とできている。	行政が催す行事に積極的に参加したい。亀有リリオで開催される音楽・演劇、水元体育館でのパラリンピックなどに参加することにより大人との交流を深め、態度、挨拶、マナー、行動を正し、責任感、協調性を育ませたい。 児童の人格を尊重して児童が自分のことを自分で決め自分らしく生きることを支援していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の悩んでいることにしっかり聞いてあげられているか また保護者の児童に対しての要望している健康面、学習面、運動面、社会性をしっかりとサポートできているのか？今後も継続的なサービスが提供できるようにソフト、ハード面から改善して参ります。	放課後デイサービスをご利用される父兄は共働きの為19:00-20:00意向でないと面談ができず、送迎時のコミュニケーションだけではその日の様子の報告程度になってしまう。また連絡帳の活用が父兄とのコミュニケーションの方法、手段なのですが職員が生かし切れていないのが要因です。	DX化を進めることでズームでの面談機会を増加させ、父兄とコミュニケーションをとり、相互に情報提供をしていくつもりである。同時に保護者同士の交流も深め、家族支援もサポートしてまいります。。
2	虐待防止委員会時や虐待防止マニュアルの読み合わせは実施しているが虐待を受けたと思われる児童を発見した場合、速やかに市町村に通報しなければならないことを全員に徹底できていない。 小さな出来事から虐待にエスカレートしていくので小さな出来事感を現場で共有するための伝達方法が課題です。	通報することにより、解雇、不利益は発生しない開かれた職場であることを理解していないことと、子供たちの場合はしつけと拘束の定義があいまいなため。 「どうしてこんなことができないの」「施設にいらなくなるよ」など職員がそんなつもりで発言しているわけではない為です。	虐待の通報義務と通報しないよりも通報したほうがメリットが大きく、行政も支援していただけることを周知する。児童の場合、危険性がまだ判断できない為、具体例を出して月一回のしつけと虐待の定義の見直しを行います。
3	児童クラブや地域のほかの子どもまた大人の方々との交流が少ない。近いところでは施設の保護者間の交流ができていない。小学生から高校生までの児童が利用しているのでそれぞれのやりたい事、価値観が異なるため児童の満足してもらえる支援方法が課題です。	指導員が障害児ということだけで迷惑をかけてしまうのではないかという固定観念にとらわれすぎていることと、交流をするきっかけづくりの機会がないため。 また保護者間の交流会を進めるための時間があいづらいことが要因です。	施設から近いボランティア活動または行政が主催する運動、学習、レクリエーション活動に積極的に参加し、子ども、大人との交流を深めます。施設としても運動、レクリエーションの行事を開催し、父兄の参加と同士の交流を深めたいと考えています。